

男子第二部

破竹の勢いで勝ち上がった東レ滋賀Aが、戸高鉦業社も一蹴し、37年ぶりの優勝

決勝戦は共に第一部復帰を目指して快進撃した戸高鉦業社と東レ滋賀A、両雄の対戦。

[1回戦]

奈良少年刑務所 2 - 1 総合警備保障

(先鋒) 吉田 建 5段	引分	山口 大有 2段
(次鋒) 森本 良 2段	引分	福島 源太 2段
(中堅) 船津 正貴 3段	袈裟固	井ノ上 貢 3段
(副将) 諸見里 真経 3段 ⊖	(指導3)	辻 幸彦 3段
(大将) 竹村 俊哉 5段	大腰	田籠 隆博 3段

ひらた整骨院クラブ 1 - 3 東レ滋賀B

(先鋒) 平田 和義 5段	反則勝	表 剛史 2段
(次鋒) 上蘭 義明 4段	支釣込足	田村 真我 2段
(中堅) 大西 浩介 3段	優勢勝 ⊖	和久田 裕人 2段
(副将) 水谷 信吾 3段	引分	沼田 康弘 2段
(大将) 滝沢 順 4段	負傷負	西澤 昌樹 4段

新日本製鐵大分 2 - 3 日柔整請求サービス

(先鋒) 梶原 康廣 2段	袖釣込腰	藤原 隆浩 3段
(次鋒) 富田 京平 初段	棄権	松浦 辰弥 2段
(中堅) 久寿米木 匠 初段	優勢勝 ⊖	矢根 和紀 3段
(副将) 高橋 宗誠 初段	裏投	木村 元太 3段
(大将) 金子 棟行 3段	横四方固	正木 勝之 3段

別府自衛隊 3 - 1 大阪総合警備

(先鋒) 安本 一貴 2段	引分	竹田 祐太 3段
(次鋒) 尾野 隆明 2段	(指導3) ⊖	稲 勇氣 3段
(中堅) 金子 源太郎初段 ⊖	(指導3)	古川 武 3段
(副將) 松永 大孝 2段 ⊖	優勢勝	宮脇 正敏 3段
(大將) 中原 竜一 2段 ⊖	(指導3)	油谷日 熊毅 2段

十全会 おおりん病院 3 - 1 大阪ガス

(先鋒) 武田 一大 3段	引分	大谷 健三 2段
(次鋒) 桑原 隆将 初段	内股	菅田 勝太 2段
(中堅) 津志田 稔宏 3段	大外刈	脇田 大樹 3段
(副將) 松岡 晃史 2段	合せ技	浅田 健志 2段
(大將) 後藤 貴陸 3段	背負投	松本 邦彦 2段

[第2回戦]

戸高鋳業社 3 - 2 奈良少年刑務所

(先鋒) 赤迫 諒介 4段	背負投	吉田 建 5段
(次鋒) 崎村 和幸 2段 ⊖	優勢勝	森本 良 2段
(中堅) 高橋 光一郎 4段	優勢勝 ⊖	船津 正貴 3段
(副將) 乙名 将吾 4段	横四方固	諸見里 真経 3段
(大將) 細田 真史 3段 ⊖	優勢勝	西 直人 3段

東レ滋賀 B 1 - 4 日柔整請求サービス

(先鋒) 表 剛史 2段	反則勝	藤原 隆浩 3段
(次鋒) 田村 真我 2段	横四方固	松浦 辰也 2段
(中堅) 和久田 裕人 2段	優勢勝 ⊖	矢根 和紀 3段
(副將) 沼田 康弘 2段	上四方固	木村 元太 3段
(大將) 西澤 昌樹 4段	裏投	正木 勝之 2段

東レ滋賀 A 4 - 1 別府刑務所

(先鋒) 木藤 翼	2 段	釣腰	安本 一貴	2 段
(次鋒) 岡田 建彦	4 段	大腰	尾野 隆明	2 段
(中堅) 角 明典	2 段	反則勝	金子 源太郎	初段
(副将) 黒澤 平	3 段	上四方固	松永 大孝	2 段
(大将) 磯 恵司	4 段	反則勝	中原 竜一	2 段

ホンダ熊本 1 - 2 十全会 おおりん病院

(先鋒) 矢田 晃一郎	3 段	大外刈	武田 一大	3 段
(次鋒) 平江 勝	2 段	裏投	桑原 隆将	初段
(中堅) 中馬場 慎剛	3 段	引分	津志田 稔宏	3 段
(副将) 富岡 良	4 段	引分	松岡 晃史	2 段
(大将) 山本 和博	5 段	優勢勝	後藤 貴陸	3 段

[準決勝戦第 1 試合]

昨年惜しくも第 1 部から陥落した戸高鉦業社は奈良刑務所との初戦の第 2 回戦を、大将戦で辛うじて制するという薄氷を踏む思いで制して準決勝に臨む。一方の日柔整請求サービスも第 1 回戦では大将戦決着という苦戦を強いられての準決勝戦進出。

戸高鉦業社 4 - 1 日柔整請求サービス

(先鋒) 赤迫 諒介	4 段	腕挫十字固	藤原 隆浩	3 段
(次鋒) 崎村 和幸	2 段	支釣込足	松浦 辰弥	2 段
(中堅) 高橋 光一郎	4 段	内股	矢根 和紀	3 段
(副将) 乙名 将吾	4 段	裏投	木村 元太	3 段
(大将) 細田 真史	3 段	裏投	正木 勝之	3 段

先鋒戦。戸高鉦業社赤迫右組、日柔整請求サービス藤原左のケンカ組手。小兵の赤迫は得意の背負投で攻めるが容易に果たせず。終盤になって両者、寝技にもつれたところをうまく赤迫が腕挫十字固に極めて一本勝。

次鋒戦。戸高鉦業社の崎村が組手優位に試合を進め、開始 1 分 2 秒に大腰で有効を奪う。続く 1 分 5 6 秒には体重をうまく乗せて、支釣込足で日柔整請求サービスの松浦を背中から落として、戸高鉦業社早々と王手を掛ける。

中堅戦。左組手の戸高鉦業社高橋は、ケンカ組手の日柔整請求サービス矢根の引手を握れず手こずるが、最終盤となった残り14秒に、矢根の一瞬の隙を衝いて内股で跳ね上げ一本勝を奪う。

副将戦。戸高鉦業社の乙名は飛十字固等の奇襲で寝技に誘おうとするが、日柔整請求サービス木村は動ぜず。逆に2分5秒に乙名が内股に来るところを、木村が裏投で返して一本。日柔整請求サービスが一矢を報いる。

大将戦。右組の戸高鉦業社細田が開始早々小内刈で技ありを奪い、優位に試合を進める。3分3秒には、細田が左組の日柔整請求サービス正木を追い込みながら腰を入れて両足への小外掛で一本を奪う。

[準決勝戦第2試合]

昨年第1部から陥落の東レ滋賀Aは、初戦の第2回戦を圧勝して準決勝戦に駒を進める。対する十全会おおりん病院は、第2回戦で接戦を演じての準決勝戦進出。

東レ滋賀A 5 - 0 十全会おおりん病院

(先鋒) 木藤 翼 2段	大外刈	浦上 裕昇 2段
(次鋒) 岡田 建彦 4段	横四方固	阿部 竜太 2段
(中堅) 角 明典 2段	支釣込足	津志田 稔宏 3段
(副将) 黒澤 平 3段	不戦勝	
(大将) 磯 恵司 4段	⊕ 優勢勝	後藤 貴陸 3段

先鋒戦。左組同士だが、開始53秒、組まない十全会おおりん病院浦上に指導1。その後の1分33秒、東レ滋賀A木藤は引手のみで大外刈から払腰に変化して大きく巻込めば、浦上は大きく転がり一本。

次鋒戦。東レ滋賀A岡田が開始早々左内股で技ありを奪い、続いて42秒には小外刈で崩し、そのまま横四方固に押え込み1分6秒、合せ技で東レ滋賀Aが連取。

中堅戦。東レ滋賀A角は左、十全会おおりん病院津志田右のケンカ組手。角は開始早々の16秒、大内刈で技ありを奪い、58秒には角が奥襟をがっちり握

り支釣込足で転がし技あり。東レ滋賀 A、速攻の 3 連続一本勝で決勝戦進出を決める。

副将戦。十全会おおりん病院の松岡の棄権により、東レ滋賀 A 黒澤の不戦勝。

大将戦。75 kg の東レ滋賀 A の磯は 130 kg の十全会おおりん病院の後藤をものともせ戦いの主導権を握り、崩しながら小内刈、背負投で積極的に攻撃する。58 秒、両者に指導 1 の後、技の出ない後藤は 3 分 36 秒、指導 2 を受ける。

[決勝戦]

昨年の第 3 部決勝戦と同じ組合せの両雄の対決。戸高鉱業社は 2 年ぶり 2 度目の第 2 部優勝を果たして第 1 部昇格に花を添えたい。一方の東レ滋賀 A は今回優勝を果たすと実に昭和 47 年の 13 回大会以来 3 度目の優勝となる。

戸高鉱業社 1 - 3 東レ滋賀 A

(先鋒) 赤迫 諒介 4 段	一本背負投	木藤 翼 2 段
(次鋒) 崎村 和幸 2 段	⊖ 優勢勝	岡田 建彦 4 段
(中堅) 高橋 光一郎 4 段	大外返	角 明典 2 段
(副将) 乙名 将吾 4 段	三角絞	黒澤 平 3 段
(大将) 細田 真史 3 段	引分	磯 恵司 4 段

先鋒戦。身長で 22 cm 差、体重で 63 kg 差、巨漢東レ滋賀 A 木藤対小兵の戸高鉱業社赤迫の一戦。まるで大人と子供が戦うようなという形容がぴったりの両者の対戦。

両者、序盤は組み合わず、互いに相手の出方を探る展開。41 秒には赤迫が組みに来るところを木藤が故意に避けたとして指導 1。

その後、両者組み始め、まずは赤迫が右の低い背負投で攻める。続いて木藤が左から内股を伺うも、共に効無し。

中盤、一時両者の動きが止まり、2 分 8 秒両者に指導。その後は、体力に優る木藤が徐々に圧力を掛け始め、組み合うのを避けた赤迫に 2 分 54 秒指導 2。共に指導 2 となって迎えた終盤は思わぬ展開になった。左釣手で奥襟を深く掴み、左からの攻撃を見せていた木藤が、両者の攻防が激しさを増した一瞬の隙を衝いて、右で釣手を握り、同時に左手を襟と、右組みに持ち替えるや否や、両膝を着いて低く右背負投で担ぐと、残り 15 秒、赤迫はもんどりうって前方

に大きく転び一本。

次鋒戦。同じ体型の両者は互いに左からの大外刈、払腰を散発するも効果なく、迎えた1分40秒、東レ滋賀A岡田の強引な払腰を戸高鋳業社の崎村が小外掛から体を捨て有効を奪う。これが唯一のポイントになり、戸高鋳業社1点返す。

中堅戦。共に左組み。東レ滋賀A角は右で奥襟、釣手で左襟をがっちり引いて攻める。55秒に指導1を受けた戸高鋳業社高橋、その後奮然攻撃に出る。ところが、1分35秒、高橋が不十分な体勢から強引な左大外刈を仕掛けると、角は右から高橋の背後に回り込み、抱き着くようにして高橋を後ろに倒して一本。

副将戦。ケンカ組手の両者、共に引手を取れず、釣手のみで攻撃を重ねるが、終盤2分54秒、攻め疲れた両者、組み合わず共に指導1。

その後、東レ滋賀A黒澤は戸高鋳業社の崎村の背後に付き、これを嫌った崎村が内股で急場をしのごうとしたところをうまく潰し、伏せた崎村の頭から跨り、両脚で頭と肩を挟んで裏返し、横に体を変えて更に両脚で絞めあげれば、3分23秒、崎村堪らず黒澤の肩口を激しく叩く。東レ滋賀A優勝を決める。

大将戦。右組の両者、互いに釣手が取れず。東レ滋賀A磯は早い動きで、戸高鋳業社細田をかく乱しようとするも決め手なく1分20秒指導1。

1分28秒には、磯が右背負投と見せて右大内刈で細田に尻もちを着かせ、一旦有効が宣告されたが、副将がこれを認めず、取り消される。

その後は膠着状態が続いて3分5秒、両者指導2を受け、そのまま引分。

記念すべき第1回大会第1部優勝、第2回大会第1部、第2部共に優勝、輝かしい伝統を誇る東レ滋賀Aが地力を発揮し、新進の戸高鋳業社を大差で退けて実に37年ぶりに第50回記念大会の第2部優勝を飾る。昨年第1部から陥落した両チームは1年で第1部復帰を果たした。